

# 創傷外科学会専門医 症例記録用紙

申請者氏名

創傷外科学会会員番号 SW

医籍登録年月日 20 年      月      日

学会入会年月日 20 年      月      日

24ポイントで記載

パワーポイントで ファイル設定>ページ設定>画面にあわせる(4:3) で設定して下さい  
フォントは MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝、Timesのいずれかとして下さい

## 症例の一覧

症例	診断名	術式（治療方法）	区分
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

注：「区分」には，申請の手引き 9. 3) に記載されている a～g を記入して下さい。記載は同一区分ごとにまとめて下さい。

## 手術症例サンプル

20Ptで記載

症例番号	3		
分類	b		
施設名	〇〇大学		
患者名(イニシャル)	X. X	性別: 男性	年齢: 〇〇歳
診断名	右手指不全切断		
術式	再接着		
指導医または執刀医: ◎ 第1助手: ○	◎ (←◎か○か、担当の記号を記載)		

※手術例では、術前、術中、術後の写真がそれぞれ必要です。

※写真には、治療時期と撮影日を付記してください。

## 症例番号3;右手指不全切断

18Pt程度でタイトル

\* 手術例では、術前、術中、術後の写真がそれぞれ必要です。

### 術前



症例〇 〇歳、男性  
診断;右手指不全切断  
電動のこぎりで受傷し、受傷後4  
時間で搬送された。  
レントゲン上、骨折は認めず、剥脱  
皮膚近位端の連続性を認め、創部  
はデグロービング損傷に類似した  
状態であった。MP関節末梢部付近  
では、ほぼ全周性に損傷が認めら  
れ、指色はpaleであった。中指の尺  
側、中指、環指の背側にも挫創を  
認めたが、指尖部までの血流は保  
たれていた。

現病歴を14Pt程度で記載

治療前 (〇〇年〇月〇日撮影)

\* 写真は1ページに4枚程度とし、治療時期と撮影日を付記してください。

## 症例番号3; 右手指不全切断

### 術中写真

\* 術中写真は、手術の手技がある程度分かりやすいものとしてください。  
デザイン時の写真や閉創後の写真のみでは不十分です。



顕微鏡下に損傷部位の検索を進めていくと、示指尺側指動脈はMP関節付近で切断され、橈側指動脈はPIP関節付近で血流が途絶していた。その為、橈側指動脈を移行して尺側指動脈の末梢と吻合した。血管の吻合により、示指の血流の再開が認められ、著明に示指末梢の指色が改善した。中指も、DIP関節中枢側付近で尺側指動脈の吻合を行った。

手術所見を14Pt程度で記載

損傷部位の展開時(左)、  
血管吻合直後の状態(右)  
(〇〇年〇月〇日撮影)

説明は18Pt程度で記載  
写真は大きく4枚まで



記入スペースが不足する  
場合、適宜スライド枚数を  
増やしてかまいません

## 症例番号3;右手指不全切断

### 術後写真



術後1.5カ月でほぼ全ての創が上皮化し、リハビリテーションを開始した。3ヶ月間リハビリテーションを行い、術後8ヶ月の現在、軽度瘢痕拘縮を認めるも経過良好であり、屈曲制限も認めずに追加治療は希望されていない。

術後経過と結果についてわかりやすく記載

術後8カ月目の状態 (〇〇年〇月〇日撮影)

- \* 術後の写真は、手術から6か月以上経過したものとしてください。
- \* 術後経過期間と撮影日を、わかりやすく付記。

## 非手術症例サンプル

20Ptで記載

症例番号	4		
分類	e		
施設名	〇〇大学		
患者名(イニシャル)	X. X	性別: 男性	年齢: 〇〇歳
診断名	胸骨骨髓炎(心臓血管外科術後)		
術式	持続陰圧閉鎖療法		
指導医または執刀医: ◎ 第1助手: ○	◎ (←◎か○か、担当の記号を記載)		

※非手術症例では、治療開始時とともに、治癒に至るまでの途中経過の写真が少なくとも2回必要です。

※治癒後は、1週間以内の写真と、1か月以上経過後の写真が、それぞれ必要です。

# 症例番号4; 胸骨骨髓炎

18Pt程度でタイトル

治療前と治療開始時

写真は大きく4枚まで 説明は18Pt程度で記載



○歳女性。  
労作性狭心症のために他科で冠動脈バイパス手術を施行。その後の手術創離開、胸骨骨髓炎の疑いで、バイパス手術後4週で当科紹介となる。  
2日後より持続陰圧閉鎖療法(NPWT)を開始(VAC®system使用)。  
陰圧は、○○mmHgで開始し、...

14Pt程度で記載

治療に関わる条件の選択や理由などについてもわかりやすく記載

当科紹介時  
(20○○年○月○日撮影)

持続陰圧閉鎖療法開始時  
(20○○年○月△日撮影)

\* 非手術例では、治療開始時に加え、治癒に至るまでの途中経過の写真が少なくとも2回必要です。



## 症例番号4; 胸骨骨髓炎

\* 非手術例では、治療経過中の創所見がわかりやすいような提示をしてください。

### 治療中



NPWT開始後4日  
(○×年×月○日撮影)



NPWT開始後2週間  
(×○年○月×日撮影)

順調な創収縮が認められ、NPWTは3週間で終了し、その後はプロスタンディン軟膏塗付による保存療法に移行した。

14Pt程度で記載

記入スペースが不足する場合、適宜スライド枚数を増やしてかまいません

# 症例番号4; 胸骨骨髓炎

創閉鎖後



NPWT開始後4週間; 上皮化後3日目  
(××年×月○日撮影)



上皮化後約2カ月  
(○×年×月○日撮影)

当科紹介から約1ヶ月で創閉鎖が得られた。

\* 治癒後は、1週間以内の写真と、1か月以上経過後の写真が、それぞれ必要です。